

白岡市議会 議長 様

## 要望書

住所：東京都台東区浅草 5-49-2

吉川マンション 204 室

電話：070-2274-9256

氏名：付 偉彤

### 母（毛嘉萍）が中国で不法に逮捕されている件に関する要望

私は付偉彤と申します。8年前留学のため中国大連から来日しました。大学卒業後東京の弁護士事務所で働いています。中国で逮捕拘留されている母「毛嘉萍」の救援にご協力賜りたく、お願いを申し上げます。

母、毛嘉萍は54歳で、遼寧省大連市に住んでいます。2021年6月2日に、母が一人で自宅にいた際、法輪功を修煉していることを理由に現地の警察に押し入れられ、強制連行され、現在大連市姚家留置場（電話：0411-88053434、0411-88053401）に拘束されています。

元々体が弱い母は31歳（私は5歳）の時、病院で胃がん末期と診断され、「手の施しようがない」と、最期を宣告されました。その時に、親戚に法輪功を紹介され、藁にもすがる思いで母は法輪功を始めました。幸運なことに母は奇跡的に快復しただけでなく、以降二十数年に渡り、一度も病院に行くことなく、健康を維持してきました。

しかし、1999年7月20日、当時の国家指導者、江沢民は、嫉妬心から法輪功への残忍な迫害を開始しました。拷問迫害による死亡者は、身元が確認できた人数だけでも4000人以上に達しており、実際の人数は統計することすらできないと言われています。法輪功に対する迫害の中で、大連は最も厳しい迫害を受けた地域の一つです。大連市長であった薄熙来は率先して、生きた法輪功学習者から臓器摘出を行い、瞬く間に全国に広め、臓器摘出から遺体の販売まで一貫して行う殺人産業を形成し、地球上にかつてない邪悪を造り出しました。

中国共産党政府の血に染まった手によって、健康体となった母から臓器が奪取される可能性さえあります。そして母が一日でも長く拘留されれば、その分拷問に遭うリスクも大きくなるのです。また警察に拘束されている状態では法輪功の修煉ができないため、がんが再発する可能性も否定できません。

私は母と一緒に法輪功を修煉していたため、もし日本から中国に帰れば、飛行機から降りた途端に逮捕される恐れがあるため、この8年間、大好きな祖母が亡くなった時も中国に帰ることができませんでした。母が不法に逮捕されている今、悲しみと不安と無力感に苛まれている私に、どうかお力をお貸しくくださいますよう、切にお願い申し上げます。

#### 記

1 人道的な立場、不当な扱いを受けている母の境遇にご関心をお持ちいただき、在日中国大使館及び日本外務省に働きかけること。



以上

## 毛嘉萍さんの早期救出を求める意見書（案）

付偉彤（フ・イトウ）さんは8年前に留学のため来日し、現在東京銀座にある法律事務所で働いています。彼女の母・毛嘉萍（モウ・カヘイ）さんは中国で1997年に伝統的な気功修煉法である法輪功を習い始めたおかげで、末期の胃がんが治っただけでなく、その後二十数年に渡って一度も病院に行くことがなく、健康を維持してきました。

ところが、中国共産党政権は1999年7月20日に法輪功に対して厳しい弾圧を始め、大連市だけでも、2020年までの21年間に、十数万人以上の法輪功学習者が迫害されてきました。そのうち、数万人が違法な罰金、拘束、洗脳、投獄を受け、数千人が麻薬中毒患者治療所や拘置所、洗脳プログラムに送られ、147人が死に至るまで迫害され、827人が違法に労働再教育を強いられ、371人が違法判決を受け、さらには、多くの方が生きてきたまま臓器を摘出されています。

そんな中、付偉彤さんの母・毛嘉萍さんも、法輪功の修煉を行っていることを理由に、2021年6月2日に自宅で警察に不法に連行され、現在大連市姚家留置場に身柄を拘束されています。拘束後未だ、家族の誰も毛嘉萍さんに面談することを認められておらず、毛嘉萍さんの身にも重大な危険が迫っているのではないかと強く危惧されます。

ついては、国におかれましては、人道的見地に立って、現在日本の会社に勤務している付偉彤さんの母・毛嘉萍さんの早期救出に全力を尽くしていただきますよう強く要望いたします。

令和3年9月10日

〇〇〇〇議会議長  
〇〇〇〇

宛先：

衆議院議長	大島	理森	様
参議院議長	山東	昭子	様
内閣総理大臣	菅	義偉	様
総務大臣	武田	良太	様
外務大臣	茂木	敏充	様
国家公安委員長	棚橋	泰文	様
警察庁長官	松本	光弘	様
在日中国大使館	総領事		様